## 夏の甲子園予選に挑戦する大分高専野球部員への激励

今春の選抜高校野球は、およそ 10 年ぶりに大分県から 2 校出場というビッグニュ スを聞いて、大分県の高校野球のレベルはかなり向上してきている、近夏の甲子園出場の切符を獲得するのは至難の業となる、と感じたのは私だけではなったはずです。

しかし、恐れ入ることはありません。

半世紀前の話で恐縮ですが、我が大分高専野球部は、当時甲子園出場常連校と言われた、津久見高校、大分商業高校、更にその前年に甲子園に出た山口県の早鞆高校と招待試合等を行い、同等あるいは同等以上の結果を残した実績があります。そのような伝統を所有している大分高専野球部です。いわゆる伝統を持っています。伝統は継続しているはずです。

伝統とは目で見えるものではありませんが、窮地の陥ったとき、または攻め 時は今だと感じたときには、無形の力強い応援があるはずです。伝統を信じて 戦って下さい。

三年生は最後の高野連の試合です。100%燃えて下さい。

二、一年生は翌年の糧になるプレーを期待しています。

後悔・失敗のない人生、もっと言えば後悔・失敗のない試合なぞありはしません。失敗したら大いに後悔をし、次のステップを駆け上がる礎(いしずえ)にしてください。

以上、72 才を迎えた老婆心ならぬ老爺心からのメッセージと感じ、頑張ってください。

ご健闘を祈念致します。

令和元年 6 月吉日 大分高専野球部 0B 会々長 安藤 文紀

## 大分高専野球部四年生及び五年生に告ぐ

大分高専野球部が九州大会及び全国大会を征したというニュースを、OB会には久しく届いておりません。

何か重要な要因があるのでしょうか?

OB会として、高野連チームが甲子園出場を果たすのは悲願であり大きな夢でもありますが、同様に高専チームが全国制覇を果たすのを何時かと、期待しているのも事実です。

聞くところによると、高野連野球が終了するとともに四年生に進級すると、 就職あるいは専攻科に進学準備で、野球に対する情熱が薄れているらしい。

事実であれば、非常に嘆かわしい事だと思料します。

毎年 11 月初めに、O B 会員が明野のグランドに集結し、現役野球部員とソフトボールの試合をして、お互いの親睦を深めることを目標にしています。

部活動は最終年まで継続することで、晴れて部活動の卒業となると考えてお ります。

どうか、今年は五年生、四年生の野球部員が全員集合し11月4日の親睦試合を楽しみ、有意義なひと時を過ごそうではありませんか。

OB会の連中は、いろんな体験をした人間が多くいます。彼らとの交流・話し合いは、諸君の将来の実生活の良き道しるべになると確信します。

グランドでの再会を楽しみにしております。

元年6月吉日 大分高専野球部OB会々長 安藤 文紀